



祝・入学！新メンバーが仲間入り

4月8日(火)に第53回入学式が行われ、新入生84名を代表して崇田穂香さん(1年・雄山中)が「新川高校生としての自覚を持って勉学や部活動を力いっぱい努力することを誓います」と力強く宣誓しました。新たな制服に身を包み、緊張した表情を浮かべていましたが、式典後のHRでは担任の先生からのあたたかい言葉を受け、リラックスした表情が多く見られました。



意外と知らない！？魚津の歴史を新聞に！

2年生が昨年度の総合的な探究の時間に魚津市散策を行い、調べたことをまとめた新聞が完成しました。タイトルは「シッテルウォツ」。魚津の米倉が発祥となった米騒動や魚津大火など、魚津市に関する歴史について7つの班に分かれ、実際に現地調査へ行ったり、話を聞いたりしてまとめました。「シッテルウォツ」は新川高校だけでなく、魚津駅前の観光案内所にもおいてありますので、ぜひ手に取ってご覧ください。



雨にも負けず、 子どもたちと幼虫採取

4月13日(日)、理科部の岡本悠太郎さん(3年・滑川中)が「花の森・天神山ガーデン カブトムシの幼虫の採取」のイベントにボランティアとして参加しました。当日は雨天にもかかわらず、多くの子どもたちが参加し、岡本さんは子どもたちと触れ合いながら、40匹以上のカブトムシの幼虫を採取することができました。

岡本さんは「雨の中だったけれど、子どもたちとカブトムシの幼虫を見つけることができて楽しかったです。また機会があれば参加したいです。」と笑顔で話していました。



学校内でお花見！？

4月11日(金)、吹奏楽部と茶道部、華道部、コミュニティビジネス部が合同で毎年恒例のお花見イベントを開催しました。たくさんの新入生が参加しました。特別ゲストの教頭先生のギター演奏もあり、新川高校らしい手作り感あふれるアットホームな盛り上がった会となりました。





現地の思いに触れる 能登半島で交流会



3月27日(木)、新川高校の生徒7名が石川県能登半島の志賀町を訪れ、応急仮設住宅に住む方々と交流会を開きました。生徒たちは、コミュニティビジネス部の17歳のコーヒーやオリジナルのお菓子を振る舞いながら、震災当時の様子や現在の生活についてのお話に耳を傾けました。交流会の後、生徒からは「特別なことはできないけれど、お話を聞くだけで喜んでくださったので、自分も嬉しかった」という声があがりました。

見る・聞く・やって知る！ 進路バスツアー

3月7日(金)に1年生が進路バスツアーを行い、午前中は青池学園、富山県理容美容専門学校、富山国際大学、富山短期大学、北陸職業能力開発大学校を見学、午後は進学就職説明会に参加しました。実際に授業を受けている学生の姿を見たり、授業体験をしたりと、これから進路に向けて考える時間になり、選択肢の幅が広がりました。



“働く”大人って何だろう？ 社会人に聞く「イノライフ体験」



3月5日(水)に2年生が富士製薬工業、3月10日(月)に1年生が魚津市商工会青年隊の方々を講師に招き、イノライフ体験をしました。普段、なかなか関わることができない方々から、これまでの人生について話を聞かせてもらいました。自分にはない新しい視点や価値観を得ることができ、とても貴重な時間になりました。



地元でアピール！ あさひ舟川でウニ缶販売

4月5日(土)、コミュニティビジネス部の部員6名が朝日町で開催中の「あさひ舟川 春の四重奏」の販売ブースに出店し、「ウニのリエット」を販売しました。

ウニのリエットは、磯焼けの原因となっているムラサキウニを使って地域問題を解決するために部員が立ち上がり、朝日町の漁協や農家、缶詰工場と連携して誕生した商品です。昨年の「LOCAL FISH CAN グランプリ」決勝大会では、ベストグルメ賞を受賞しています。

部員たちは店頭に立ちながら、パネルを使って商品開発の過程や



パッケージ等のこだわりを訪れた人々にPRしました。桜が咲ききっておらず、完全な四重奏は目にすることができますでしたが、商品の魅力を十分に伝えることができました。

1年のはじめは校外で！ 陸上競技部の春季合宿

3月26日～28日の2泊3日、とやま自遊館に宿泊して春季合宿を行いました。練習は五福公園陸上競技場で行い、冬季練習の成果を試す良い機会になりました。5月からのシーズンインを見据えて、それぞれ必要な練習に取り組むことができました。

これからも怪我なく全力を出せるよう頑張っていきます！



練習試合に東京へ！

3月25日～26日に、新しい体制になった野球部が初めての遠征へ行きました。遠征先での練習試合では、埼玉平成高校に9-3、日本大学第二高校に3-11、佐久長聖高校に1-11と1勝2敗で負け越す結果になりました。しかし、春季大会、選手権大会に繋がる収穫が多くありました。「楽しさと好きな野球を忘れない」をモットーに掲げ、選手、スタッフ一枚岩となって今後の戦いに挑んでいきます。

